

明治史料館通信

2009. 10. 25 (季刊 年 4 回発行) Vol. 25 No. 3 通巻第99号

御濱海水冷温浴場保養館開業廣告

此地既新開浴場... 湯之大約... 日之新... 保養館... 明治二十五年四月

保養館主謹白

御濱海水冷温浴場保養館開業廣告

明治 25 年 (1892) 4 月

(当館所蔵)

ぬまづ近代史点描 69

戸田の保養館と東京大学戸田寮

戸田・御浜に東京大学が所有する戸田寮という建物がある。東京大学の在学生・教職員・卒業生及びその家族が利用できる保健体育寮となっている。

戸田寮の前身は、明治三十一年（一八九八）七月に東京帝国大学水泳部（同一七年創部）が開設した水泳場であるが、これより先、同二五年四月、保養館という名称の旅館が同地に開業した。静浦村志下（現沼津市志下）に安藤正胤が同名の旅館を開業する前年のことである。

幕末のヘダ号建設の際に造船世話掛を務めた船大工佐山太郎兵衛の甥にあたり、自身も大阪難波島に造船所を創設した佐山芳太郎が、戸田村と五十年間の借地契約を結び、現在の戸田寮の敷地に建物を建設した。同年四月七日付で松城八重から静岡県田中警察分署宛に「一等旅人宿営業願」が出され、同月十二日に田中分署長名で

許可が出ている（松城家文書）。この文書に別紙で付された図面によれば、二階建てで一階に三、九畳の七部屋、二階に四畳半、十二畳の四部屋が設けられていた。

同四一年、保養館は東京大学によって買収され、大正二年（一九一三）八月、戸田寮開場式が挙行された。この建物は昭和六年（一九三一）に滄海楼が新設されるまで存続した。

大正六年（一九一七）七月には東京帝国大学主催の第一回全国競泳大会が戸田大会として開催され、その後全日本選手権や、関西・浜名の全国大会とともに重要な大会となった。また、昭和五年からは伊豆・戸田マラソンも開催されている。

〈参考文献〉東京大学戸田寮史編集委員会編『東京大学戸田寮八十年史』一九七六、「ヘダ号の建造—幕末における—」戸田村教育委員会発行・一九七九

御浜海水
冷温浴場 保養館開業広告

伊豆の地たる景勝なしとせず。然れども君沢郡戸田港なる御浜に比ふべきなし。蓋し世人の未だ多くしらざるところなり。御浜戸田港の入口に斗出せる一小半島にして長大約十六丁幅五十余間あり。島中一带大樹林をなし宛から築山の如し。西北ハ駿河湾に沈ミテ奇巖怪石岸につらなり、東南ハ戸田港に浜して白砂青松と相映し、海水澄清ニして塩分最も多し。今般その中央ノ地をトして海水冷温の両浴場を開始せり。命して保養館とゆふ。北にハ富嶽田子のうら等諸勝あり、西にハ遙に三保崎及び駿遠の群巒をのぞみ、東南にハ達摩、真城の両山ちかく聳ゆ風光画の如し。また岸辺にハ海草魚介のるい夥く、女子も手して容易く捕ふべし。夏秋の候には松魚近く群集し来り。漁者の一網数千を獲るをみるへし。島上ハ他に人家なけれハ幽静にして徜徉によろしく、海上ハ舟をうかへ釣を垂れて遊ぶへし。四時眺望ニあくことなく無

聊を感すことなしかるに夏ハ南風鬱叢たる樹林の間を徹して涼を輸り、冬ハ西風を近山大樹にさえきりて暖なり。客に夏冬の苦しらず塵宇をはなれたる別乾坤にして最も肺患、胃疾、脚気等の病やしのふに適し。將た暑をさらに無比の仙境たり。一遊たちまち浴腸をあらふべきなり。

此地駿州沼津をさる海上大約四里半。日ニ汽船二、三艘、和船數艘往来す。賃錢ハ汽船十二、三せん、和船ハ六、七錢。また修善寺温泉場より山ごし三里半計あり。又清水港より海上大約六里にして是又和船數々之往来せり。飲食の料の如きハ近傍ニ牧牛場あれハ牛乳を得るに自由にして、尚養禽場あり養魚場あり。総て新鮮をえらみ極めて廉価をもって客に供し、万事理便を専とし叮嚀を旨とす。

右之通りにして本年四月一日より開業仕候ニ付、大方の貴賓一遊をこころミ給はんことを伏して奉懇願候

明治廿五年四月

保養館主謹白

江原素六とその周辺(51)

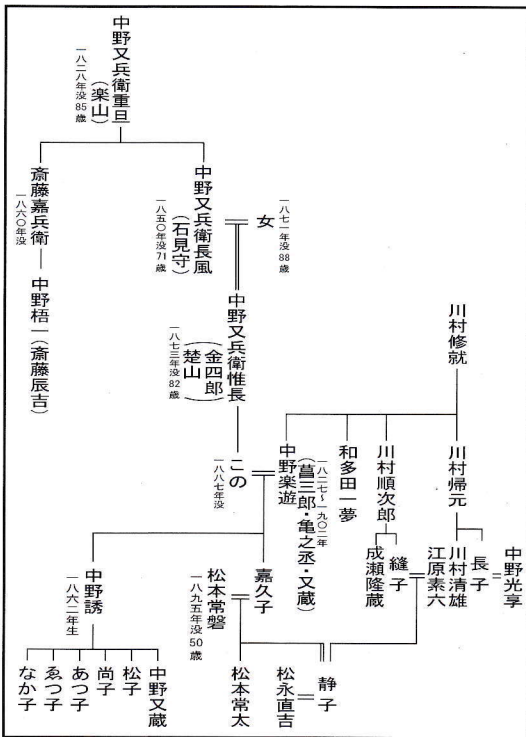
中野 梧 一 と 江 原 素 六

中野梧一（一八四二〜八三、旧名齋藤辰吉）は、幕府代官の子に生まれ、榎本武揚軍に加わり箱館五稜郭に立て籠もった経歴を持ちながら、赦免後はいち早く新政府に仕え初代山口県令となり、さらに大阪で実業家・政商に転じ成功した人物である。彼の履歴については、田村貞雄校注『初代山口県令中野梧一日記』（一九九五年、マツノ書店）が詳しい。民権派から大きな非難を浴びた北海道官有物払い下げ事件に関わったため、静岡の新聞紙上でも実名を伏せながらもその変わり身の早さ、抜けた目なさが皮肉られた（「梧一と葉」『函右日報』明治14年8月16日）。

一方、江原素六は旧幕臣としての意地を堅持し、明治政府に仕えることを潔しとせず、在野の姿勢を貫き、また清貧に甘んじた人物である。同い年ながら、二人は対極に位置する。しかし、本人同士が知っていたか、あるいはどれほど意識していたかは不明ながら、中野と江原は姻戚関係でつながっていた。従来指摘されていない事実であり、系図で示してみた。

江原の妻縫子は初代新潟奉行をつとめた旗本川村修就の孫娘であり、修就の三男（縫子の叔父）中野楽遊（又蔵）は中野惟長（又兵衛・楚山）の婿養子となった人だった。惟長の従弟にあたるのが中野梧一である。さらに、江原の三女静子が養女となった松本常磐は中野楽遊の娘婿だった。箱館戦争後に静岡藩に帰参した梧一は、楽遊やその息子中野誘の「厄介」「附籍」となり、齋藤姓を中野姓に改めた。なお、惟長の養父で、梧一の伯父にあたる中野長風（又兵衛・石見守）は勘定吟味役・佐渡奉行・堺奉行・大坂町奉行などを歴任した人である。

以上、親類書（江原文書M-12）、川村家過去帳（故川村清衛氏ご教示）などを参考にした。（樋口雄彦）



中野梧一と江原素六をめぐる姻戚関係図



中野梧一（谷壮太郎『愛国民権演説家百詠選』上、明治15年刊）

お知らせ欄

◎「地震之記」を購入しました

旧沼津藩士山崎継信が嘉永7年（二八五四年）11月に発生した安政東海大地震に際して記したものです。地震被害の記録や、沈没したディアナ号の乗組員が宮島（現富士市）から沼津を経て戸田村（現沼津市）まで徒歩で向った際のロシア人の姿が描かれ、当時の記録として高く評価されています。



羽ヲリノヨウナルモノ
織モノナルベケレ
共熊ノ皮ノ如シ
将官 フウチャジン

◎開館25周年記念

企画展「史料館のキセキ☆」開催

10月1日に明治史料館はめでたく開館25年を迎えました。25年の間に開催された企画展は延べ48回を数え、沼津の歴史を紐解き紹介してまいりました。当館の最重要テーマである「沼津兵学校」関係の展示はもちろん、沼津にゆかりの文人・画人・戦争・災害・医療など数々の企画展を開催しました。その企画展のポスター・チラシや企画展会場の様子を写した写真、当時の世相などを織り交ぜ展示しています。明治史料館の歩んできた25年のキセキを辿ってみてください。

また、上記の『地震之記』を初公開いたします。貴重な資料を間近でご覧ください。

期間 平成21年10月10日(土)から

平成22年3月28日(日)まで

会場 4階展示室

*ギャラリートーク

毎月第2土曜日 11時から

館職員が展示解説をします。

(申込み・参加費は不要)

直接会場へお越しください

◎第六回館蔵資料展

「沼津病院と医師たち」

9月2日(水)から29日(火)の期間、市内上本通りの沼津信用金庫本店のぬましんストリートギャラリーで開催しました。明治2年（一八六九）に沼津兵学校に付設された沼津病院と、杉田玄端・林洞海をはじめとする医師たちにスポットを当てた展示を行いました。

◎特別展「沼津兵学校のすべて」開催のお知らせ

当館では開館以来「沼津兵学校」に関係する資料の収集、調査・研究に努めてきました。今回の展示では、これまでの成果の集大成を目指し、明治初期のわずかな間しか存在しなかったにもかかわらず、当時の最高水準の教育内容を誇り、数多くの有能な人材を輩出した「沼津兵学校」を詳しく紹介します。また、再版が待たれていた『図録 沼津兵学校』も新たに『図説 沼津兵学校』と名前を変えグレードアップして刊行します。期間 平成21年12月5日(土)から平成22年3月28日(日)まで

会場 3階南側展示室

*ギャラリートーク

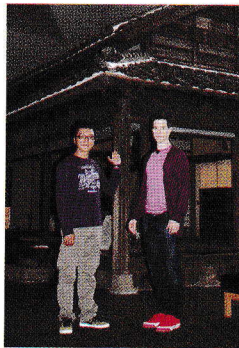
毎月第3土曜日 11時から
館職員が展示解説をします。

(申込み・参加費は不要)

直接会場へお越しください

◎バックンマクン来館

10月6日(火)、SBSテレビ「みちブラっ！静岡十八番」のロケが行われ、お笑いタレントのバックンマクンが来館しました。根方街道の特集で（11月7日放送予定）、当館も名所のひとつとして取り上げられました。



江原邸前にて

沼津市明治史料館通信 第99号

編集 沼津市明治史料館

発行

〒410-0801 沼津市西熊堂三七二-1

電話 〇五五-九二三-三三三五

FAX 〇五五-九二五-三〇一八

http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashisetsu/meiji/index.htm